厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策等研究事業）
分担研究報告書

潜在性（サブクリニカル）副腎性 Cushing 症候群に関する研究

研究分担者 方波見卓行　聖マリアンナ医科大学　医学部・病院教授

研究要旨

原発性アルドステロン症（PA）患者において、軽微なコルチゾールの自律生産性(MACS)は腎合併症に対する独立したリスク因子である。副腎性顕性 CS を診断時期により 2 群に分類し、両群の臨床的、生化学的所見を比較したところ、ここ最近、早期診断に関する顕著な予後改善はなかった。

A．研究目的

原発性アルドステロン症(PA)患者における軽微なコルチゾールの自律生産性(MACS)の影響を検討する。また最近の軽症 Cushing 症候群（CS）の診療実態を解析する。

B．研究方法

1310 例の PA 患者のうち、デキサメサゾン抑制試験後の血中コルチゾール濃度が >1.8μg/dL の MACS 群(N=340)と、≦1.8μg/dL の non-MACS 群(N=970)に分類し、両群の腎合併症有病率を比較した。

副腎性 CS 102 例を、起点(2016 年 11 月)から 5 年以内（After 群 50 例）と 5 年以上前（Before 群：52 例）に分類し、臨床像、生化学・内分泌所見を比較した。

（倫理面への配慮）

人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に従い、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認を得た（20170331）。

C．研究結果

MACS 群の eGFR 低下(<60mL/分/1.73m^2 で定義)、尿蛋白(試験紙法+1 以上)の有病率は non-MACS 群と比べ、約 2 倍高高値だった。

After 群と before 群の診断年齢、性、特徴的 Cushingoid，非特異的症候の有病率，早朝・夜間・1mg デキサメサゾン負荷後の血中コルチゾール濃度や尿中遊離コルチゾール濃度、血圧，血清 K，糖・脂質・骨代謝異常，心血管障害に群間差はなかった。

D．考察

PA 患者における MACS の腎合併症に及ぼす影響を明らかにした。

わが国では、少なくとも 2005 年以降のおおよそ 10 年間に早期診断に関する顕著な予後改善はない。

E．結論

MACS は PA 患者の腎合併症に対する独立したリスク因子である。ここ最近、早期診断に関する顕著な予後改善はない。

F．健康危険情報

なし

Ｇ．研究発表

１．論文発表

Katabami T, et al. Primary aldosteronism with mild autonomous cortisol secretion increases renal complication risk. Eur J Endocrinol 2022 186(6):645-655.

２．学会発表

方波見卓行　副腎性 Cushing 症候群；診断法の現状と課題　第 30 回日本ステロイドホルモン学会学術集会　2023 年 2 月 25 日

Ｈ．知的財産権の出願・登録状況

１，特許取得

なし

２．実用新案登録

なし

３．その他

なし